

一団体ではできないことが、さまざまな団体と協働すればできる...そんな楽しさを実感した熱気球の打ち上げ



＼かごしまの地域を元気に！／ 共生・協働の地域社会づくり

始良市 NPO法人Lab蒲生郷(らぼかもうごう)

蒲生発、まちづくりの実験室 協働が生み出す地域の笑顔

平成22年3月の合併により、始良市として歩き始めた旧蒲生町。ふるさと蒲生を元気にしたいと、お寺の住職、商店主、公務員、主婦などさまざまな地域住民が集まり、平成19年にNPO法人Lab蒲生郷を設立し、活動を続けています。「Lab蒲生郷」という名前には「蒲生を一つの実験室(Laboratory)として、協働(Collaboration)することで新しい変化を生み出す(Labor)」という理念が込められており、商店街の空き店舗を活用した事務所で、ふるさと蒲生のために何ができるか、日々新しいアイデアを生み出しています。

NPO法人を設立してから現在までの3年間で、ガイドマップの作成、蒲生の民話絵本化事業、イベント開催など、さまざまな事業(実験)を成功させてくれた理由を、「みんなが協働する楽しさを知っているから」と話すのは副理事長の小山田邦弘さん。Lab蒲生郷は、ノウハウを持った団体や個人と協働して、地域の中から出たアイデアを積極的に採用し実行してきました。



熱気球に乗ってにっこり笑う子どもたちの心には、蒲生の大楠の偉大さと楽しい思い出が刻み込まれたことでしょう。

平成20年度には、環境教育事業「測ってみよう！日本一の大楠のCO₂」で、県環境技術センターや始良伊佐地域振興局と協働し、蒲生小学校の子どもたちと、蒲生の大楠が吸収しているCO₂(二酸化炭素)量を測定しました。測定の結果は、体積にして6万2千立方メートル。この量を子どもたちに分かりやすく、目に見える形にするため、熱気球のネットワークの方や宮崎大学、企業などの協力を得て、測定した体積と同じ大きさの熱気球を飛ばしました。大楠が吸収しているCO₂量を体感した子どもたちは、ゴミを燃やすことにより発生するCO₂にも着目し、この体験をゴミ削減の活動につなげていきます。



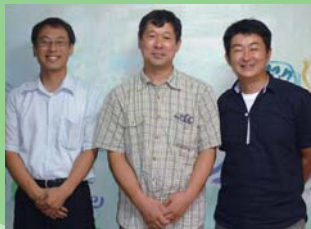
アメンボの数の調査で川に来た子どもたちの楽しげな様子が、Lab蒲生郷の皆さんの活動の原動力になっています。

今年度は、蒲生の「水」がテーマです。河川環境の健全度の指標であるアメンボの数を調べて地図に表示するとともに、文化・歴史からも蒲生の水に親しんでもらおうと、小学生が地域の高齢者を訪ねてカップパの目撃情報を聞き取り調査するプロジェクトが始動しています。目撃情報があった場所を、小学生と高齢者で行く計画もあります。カップパを話題に、子どもたちと高齢者との間に会話や笑顔が生まれること、子どもたちの蒲生への理解・愛着が深まること、Lab蒲生郷にとつての実験成功の証です。

また、昨年度に引き続き10月・11月と3月に「小さくてもキラリと光る町・蒲生」を感じて楽しめる体験型のビッグイ

代表者からひとこと

楽しさがLab蒲生郷の活動の源泉です。地域資源を結びつけることで、蒲生ではいろいろなことができます。「ふるさと蒲生」に子どもたちの遊び場をたくさん作ってきたいです。



副理事長 小山田邦弘さん(右)
理事長 藤谷亜太可さん(中央)
理事 留野真一さん(左)

イベント、「カモコレ」を開催します。パンフレットを高齢者の方々にも見やすく改善するなど、回を重ねる度に多くの方が楽しめるようなイベントに進化しています。

Lab蒲生郷は、蒲生に暮らす人々がつながり、笑顔になれる町づくりを目指して、今後もさまざまな団体との協働を進めていくことにしています。

共生・協働の地域社会づくりやNPO法人に関するお問い合わせ先

- 共生・協働推進課(県庁9階) TEL.099(286)2241
 - 共生・協働センター(かごしま県民交流センター内) TEL.099(221)6613
- 関連情報は、県ホームページの「共生・協働(NPO・ボランティア)」にも掲載しています。